

2021 年度 総合研究所特別研究員 研究活動報告

氏名	山口 瑞穂
研究テーマ	日本国内の宗教運動における終末論的救済観の比較研究
研究概要	日本で展開する宗教運動における終末論的救済観の宗教的源泉、社会志向性、想定される救済の時期などの差異を、文献調査によって比較検討する。

1. 研究活動の概要と研究成果	<p>本研究は、終末論的な救済観を掲げる宗教運動における①宗教的な源泉の差異、②社会との向き合い方（社会志向性の差異）、③想定される救済の時期（現世／没後）などを比較し、宗教運動のありように生じる差異を検討するものである。①は再臨待望論に代表されるような、キリスト教を宗教的な源泉とする宗教運動のほか、日本発祥の新宗教運動の救済観も比較対象とするものである。②は、当該宗教運動における終末論的な救済観が、「世直し」などの社会変革による救済を志向するのか、超越的な存在や超自然的な方法による救済を志向するのかを比較するものである。さらに③は、信奉者たちにとって存命中の救済が想定されているのか、没後の救済が想定されているのかを比較するものである。</p> <p>このうち、①宗教的な源泉がキリスト教にあり、②社会志向性が極めて薄く、③長年にわたり、信奉者たちの存命中における救済が想定されてきたエホバの証人の宗教運動については、拙著『近現代日本とエホバの証人——その歴史的展開』（法蔵館、2022年）として刊行した。なお、本書は2020年に提出した博士論文の内容をもとにしたものである。</p>
2. 学術論文・学会発表等	<p>単著『近現代日本とエホバの証人——その歴史的展開』法蔵館（2022年4月）</p>
3. 今後の課題	<p>本年度は、キリスト教を源泉とする宗教思想や宗教運動の各種の研究会に参加する中で、宗教的な源泉の差異や想定される救済の時期の問題もさることながら、宗教運動における社会志向性の差異に注目する必要性や、社会志向性の差異を分析軸とした比較の可能性の大きさについて、改めて気付かされた。そのため、今後の課題としては、終末論的な救済観を掲げる宗教運動のうち、とりわけ社会との向き合い方の差異に的を絞って文献・論文の収集と比較をおこないたい。</p> <p>また、研究の途中経過を学術大会で発表し、研究ノートないし論文として投稿する。</p>